

オオバノハチジョウシダ *Pteris terminalis* Wall.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 14。暖地性の植物で、名古屋市内では1ヶ所に生育しているだけである。

評価区分

名古屋市2020	絶滅危惧IB類
愛知県2020	リスト外
環境省2020	リスト外

【形態】

半常緑性の多年生草本。根茎は太く、短く横にはう。葉は束生し、葉柄は長さ 40~80cm、基部は赤褐色を帯びる。葉身は楕円状卵形、大きいものでは長さ 100cm、幅 60cm 以上になるが名古屋のものは長さ 55cm、幅 35cm 程度、2回羽状全裂、5~9対の側羽片と頂羽片からなり、各羽片は多数の小羽片をつけるが、先端部 2~3cm は切れ込まず尾状になる。小羽片は線状三角形~三角状披針形、長さ 3~6cm、幅 5~10mm、葉脈はすべて遊離する。胞子のう群は葉縁に沿って長くつき、偽包膜におおわれる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区(東谷山, 村松 28185, 2015-10-23)。

【県内の分布】

東三河には点々と分布しているが西三河と尾張では少ない。西三河では5稲武(若い株)、21下山、24豊田東部(古い標本)で確認されているのみ、尾張でも名古屋のほかは37a瀬戸、45犬山、48春日井で確認されているだけである。

【国内の分布】

本州(秋田県以南)、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸、東南アジア、ハワイ。



【生育地の環境/生態的特性】

山地の沢沿いに生育する。

【現在の生育状況/減少の要因】

東谷山北側の沢に2株生育していた。現地は1985年頃砂防堰堤が作られた場所で、その後に定着したと思われる。しかし、2018年6月に再調査した時には確認できなかった。

【保全上の留意点】

名古屋市内では東谷山以外に生育できそうな環境がない植物である。生育地の地形や植生を保全することが必要である。

【特記事項】

オオバノアマクサシダ var. *fauriei* (H.Christ) Ebihara et Nakato は羽片先端の尾状部分が長く、小羽片が少なく、幼株では羽片前側が分裂しないもので、東三河の低山地には点在し、西三河でも稀に生育しているが、尾張ではまだ確認されていない。

【関連文献】

保シダ p.59, 平シダ p.135, 学シダ I p.380,
倉田 悟・中池敏之(編). 1985. 日本のシダ植物図鑑 4:174-185. 東京大学出版会, 東京.

(村松正雄 芹沢俊介)

クリハラン *Neolepisorus ensatus* (Thunb.) Ching

評価区分

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、
 県内分布 1、補正+1（尾張に希少）、総点 14。暖地性の植物で、
 名古屋市内では 1ヶ所に生育しているだけである。

名古屋市 2020	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2020	リスト外
環境省 2020	リスト外

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は長く這い、直径 4~5mm、淡褐色の鱗片におおわれる。葉は 1~4cm
 間隔で出て、葉柄は長さ 10~25cm、まばらに鱗片がつく。葉身は披針形~線状長楕円形、単葉、長
 さ 25~40cm、幅 4.5~8cm、中央部が最も広く上下に向かって狭くなることも、下部でやや急に狭
 くなり葉柄に翼状に流れることもある。主側脈は 8~13mm 間隔で出る。胞子のう群は円形~楕円
 形、成熟して長さ 2~5mm、中肋の両側に 1~4 列に不規則に並ぶ。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区（平和公園，長谷川泰洋 s.n.,
 2019-10-23, NBC）。

市内分布図



【県内の分布】

東三河には点々と分布しているが、西三河
 と尾張では稀である。西三河では 23 藤岡（若
 い株）と 24 豊田東部、尾張では名古屋市のほ
 か 44b 南知多で確認されているにすぎない。

【国内の分布】

本州（南東北地方以南）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸、東南ア
 ジア。

【生育地の環境／生態的特性】

通常は山地の湿った地上に生じ、根茎を伸ばして群生する。

【現在の生育状況／減少の要因】

公園内のやや乾いた緩傾斜の林床に、それぞれ 10 葉ほどの小群落が 3 つある（長谷川ら、未発表）。

【保全上の留意点】

公園内なので、現在の管理を継続すれば保全されると思われる。

【特記事項】

和名は栗葉蘭で、葉の形がクリ（ブナ科）に似た植物であることによる。

【関連文献】

保シダ p.59, 平シダ p.268, 学シダ I : p.466,
 倉田 悟・中池敏之（編）. 1981. 日本のシダ植物図鑑 2:526-536. 東京大学出版会, 東京.

（村松正雄 芹沢俊介）

オニトウゲシバ *Huperiza javanica* (SW.) Fraser-Jenk.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、
 県内分布 1、総点 12。暖地の低山地に生育する植物で、名古屋市
 内では 1ヶ所に生育しているだけである。

評価区分

名古屋市 2020	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2020	リスト外
環境省 2020	リスト外

【形態】

常緑性の多年生草本。茎は数回分枝し、基部は若時斜上するが老株では横に倒れ、上部は直立し、
 高さ 10～20cm になる。葉はやや斜上気味に開出し、短い柄があり、葉身は狭長楕円形、長さ 20～
 30mm、幅 3～5mm、両端とも鋭形、辺縁には不規則な歯牙がある。胞子のうは茎上部の葉の基部
 に断続的につき、その部分の葉はしばしば著しく小さくなるが、あまり小さくならないこともある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（東谷山、村松 28245, 2016-5-13）。

【県内の分布】

東三河、西三河には点在するが、尾張では
 少なく、名古屋市のほか、37a 瀬戸、45 犬
 山、46 小牧、48 春日井で確認されているだけ
 である。

【国内の分布】

本州南部、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸南部、東南アジア。



【生育地の環境／生態的特性】

低山地のやや湿った林床や粘土質の崖地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

東谷山北側の沢の林内に小群落がある。

【保全上の留意点】

名古屋市内では東谷山以外に生育できそうな環境がない植物である。生育地の地形や植生を保全
 することが必要である。

【特記事項】

2倍体と4倍体があることが知られているが、名古屋市のものは4倍体と推定される。東谷山では、
 本種とホソバトウゲシバの雑種と推定されるヒロハトウゲシバと思われる植物も採集されている
 （標本：鳥居ちよ子 3278, 2013-9-23）。

【関連文献】

保シダ p.10, 平シダ p.43.

(村松正雄 芹沢俊介)

コウヤコケシノブ *Hymenophyllum barbatum* (Bosch) Baker

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 13。暖地性の植物で、名古屋市内では 1ヶ所に生育しているだけである。

評価区分

名古屋市 2020	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2020	リスト外
環境省 2020	リスト外

【形態】

常緑性の多年生草本。茎は細い針金状で、長く這う。葉はややまばらに出て、葉柄は長さ 1~3cm、葉身は長楕円形~卵形、長さ 3~8cm、幅 2~3cm、2 回羽状、一部 3 回羽状に切れ込み、羽片は 4~12 対、裂片は幅 0.7~1.5mm で円頭、辺縁に歯牙がある。中軸と羽軸には裂片とほぼ同幅の翼がある。胞子のう群は葉の上部につくが最先端につかない部分があることもあり、包膜は 2 弁状、円形~卵形、長さ 1~2mm、上部辺縁に歯牙がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（東谷山，村松 29701，2018-6-23，NBC）。

【県内の分布】

三河山地では普通にみられる植物である。尾張では名古屋市のほか、37a 瀬戸、45 犬山、47 小牧、48 春日井で確認されている。

【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸、東南アジア。



【生育地の環境／生態的特性】

沢沿いの林内の岩場にマット状に生育していることが多いが、樹幹に着生することもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

東谷山北側の沢の岩場に小群落がある。

【保全上の留意点】

名古屋市内では東谷山以外に生育できそうな環境がない植物である。生育地の地形や植生を保全することが必要である。

【特記事項】

葉裂片の辺縁に歯牙があることで、他のコケシノブ類から容易に区別できる。コケシノブ科の植物は通常空中湿度の高い場所に生育するため丘陵地や平野部では少なく、名古屋市内では本種の他はウチワゴケ *Crepidomanes minutum* (Blume) K.Iwats.が守山区（吉根，村松 27957，2014-12-24 など）と中区（二の丸，高木順夫 10567，2002-9-14）に生育しているだけである。

【関連文献】

保シダ p.43, 平シダ p.83, 学シダ I p.310
倉田 悟・中池敏之（編）. 1987. 日本のシダ植物図鑑 5:36-49. 東京大学出版会，東京.

（村松正雄 芹沢俊介）

ヒメワラビ *Thelypteris torresiana* (Gaudich.) Alston

評価区分

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 12。山地では普通にみられるが丘陵地では急激に減少する植物で、名古屋市内では生育地も個体数も少ない。

名古屋市 2020	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2020	リスト外
環境省 2020	リスト外

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は斜上する。葉は束生し、葉柄は長さ 35～80cm、基部に披針形で褐色の鱗片がつき、葉身は卵状楕円形、長さ 50～100cm、幅 40～60cm、3 回羽状に深裂し、単細胞の毛がある。羽片は 10～13 対、上部のものは次第に小さくなる。小羽片は多数つき、披針形、大きいものは長さ 12cm、幅 2.5cm くらいになり、羽軸にやや斜めについて無柄、裂片も小羽軸にやや斜めについて、羽状に浅裂する。胞子のう群は裂片の中肋と辺縁の中間につき、包膜は円腎形である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（東谷山，村松 28339，2016-9-12；下志段味，芹沢 83277，2008-9-13；竜泉寺北面，日比野修 4584，1998-7-23）。

【県内の分布】

東三河、西三河では普通に見られるが、尾張では少なく、名古屋市のほかは 37 瀬戸、38a 長久手、54 稲沢で確認されているだけである。

【国内の分布】

本州（秋田県以南）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。



【生育地の環境／生態的特性】

林縁や林道の脇などの明るい場所に群生することが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

東谷山では、北側の沢沿いの林縁に葉身長 50～60cm の株が数株生育していた。下志段味は葉身長 1m 近い大きい株だったが林縁に少数生育していただけ、竜泉寺は状況がよくわからないが、おそらくここも 1～2 株だったと思われる。

【保全上の留意点】

名古屋市では散発的に出現するだけの植物であるが、一般的に言えば生育地の林を保全することが必要である。

【特記事項】

ミドリヒメワラビ *T. viridifrons* Tagawa は本種とは逆に平野部や浅い丘陵地に多い種類で、山地に入ると少なくなる。都市近郊の環境調査報告書などでヒメワラビとして記録されている植物は、多くの場合ミドリヒメワラビである。

【関連文献】

保シダ p.112, 平シダ p.213, 学シダ I p.431
倉田 悟・中池敏之（編）. 1983. 日本のシダ植物図鑑 3:678-695. 東京大学出版会, 東京.

（村松正雄 芹沢俊介）

タニヌワラビ *Athyrium otophorum* (Miq.) Koidz

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 13。暖地性の植物で、名古屋市内では 1ヶ所に生育しているだけである。

評価区分

名古屋市 2020	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2020	リスト外
環境省 2020	リスト外

【形態】

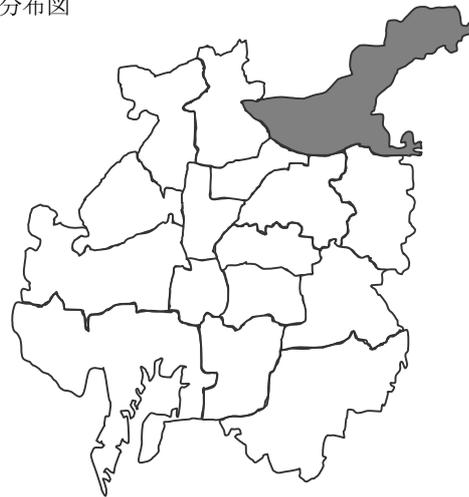
常緑性の多年生草本。根茎は直立する。葉は束生し、葉柄は長さ 30~45cm、帯紅紫色、下部に披針形で黒褐色の鱗片がつく。葉身は卵形~卵状三角形、長さ 35~50cm、幅 25~40cm、2 回羽状全裂する。羽片は 7~9 対、最下羽片にはごく短い柄があるが中上部の羽片は無柄、上部の羽片はやや急に小さくなる。最下羽片の小羽片は 12~18 対、大きいものは長さ 3cm、幅 13mm くらいになり、ほぼ無柄、基部前側は耳状になる。胞子のう群は裂片の中肋寄りにつき、包膜は半月形、線形間がは鉤形、長さ 2~3.5mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（吉根、芹沢 82954, 2008-7-16）。標本は葉身長約 50cm のよく育った葉である。下志段味（犬飼清 10354, 1990-6-11）で採集された標本もある。

市内分布図



【県内の分布】

東三河では点々と分布し、西三河では 9 区画で確認されている。尾張では名古屋市のほか、37a 瀬戸、37b 尾張旭、44a 美浜、45 犬山、47 小牧で確認されている。

【国内の分布】

本州（山形県以南）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、インド北西部。

【生育地の環境／生態的特性】

通常は山地のやや湿った林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

最近の調査では、林内に 8 株生育しているのが確認された。

【保全上の留意点】

生育地の林や地形を保全することが必要である。

【関連文献】

保シダ p.129, 平シダ p.237, 学シダ II p.303.
倉田 悟・中池敏之（編）. 1990. 日本のシダ植物図鑑 6:556-566. 東京大学出版会, 東京.

（村松正雄 芹沢俊介）

ヒカゲワラビ *Diplazium chinense* (Baker) C.Chr.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 12。暖地性の植物で、名古屋市内では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市2020	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2020	リスト外
環境省2020	リスト外

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は匍匐する。葉は互いに接近してつき、葉柄は長さ 30~60cm、下部に披針形で黒褐色の鱗片がつく。葉身は広卵状三角形、長さ、幅とも 40~70cm、3 回羽状全裂する。羽片は 6~8 対、最下羽片には長い柄があり、上部の羽片は次第に小さくなる。最下羽片の小羽片は 11~14 対、大きいものは長さ 12cm、幅 4cm くらいになり、長さ 4~5mm の柄がある。裂片はややまばらにつき、羽状に中~深裂する。胞子のう群は裂片の中肋寄りにつくが先端はしばしば葉縁近くまで達し、線形、長さ 1.5~3mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区(東谷山, 村松 28195, 2015-10-23)、
中川区(富永, 芹沢 81754, 2007-7-23)。

【県内の分布】

東三河には点々と分布しているが西三河と尾張では少ない。西三河では 20 足助、21 下山、25 豊田北西部(若い株)、尾張では名古屋市のほか 37a 瀬戸、37b 尾張旭、38a 長久手、41b 知多、44b 南知多、48 春日井、58b 弥富で確認されている。

【国内の分布】

本州(新潟県以南)、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、ベトナム。



【生育地の環境／生態的特性】

通常は山地のやや湿った林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

東谷山では、北側の沢に、葉身長 60cm 程度のよく育った株が 2 株生育していた。現地は 1985 年頃砂防堰堤が作られた場所で、その後定着したと思われる。しかし、2018 年 6 月に再調査した時には確認できなかった。消失の原因はよくわからないが、ニホンジカによる食害の可能性もある。中川区では小群落があったが、本来の生育地とは考えがたく、また近況も確認されていない。

【保全上の留意点】

東谷山の現地はそのまま残されているので、そのうちに再度出現することも期待される。生育地の林や地形を保全することが必要である。

【関連文献】

保シダ p.140, 平シダ p.256, 学シダ II p.327
倉田 悟・中池敏之(編). 1983. 日本のシダ植物図鑑 3:82-87. 東京大学出版会, 東京.

(村松正雄 芹沢俊介)

シロヤマシダ *Diplazium hachijoense* Nakai var. *shiroyamense* (Tagawa)

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 13。暖地性の植物で、名古屋市内では生育地も個体数も少ない。

評価区分

名古屋市2020	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2020	リスト外
環境省2020	リスト外

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は太く横に這う。葉は互いに接近してつき、葉柄は長さ 50~100cm、下部に褐色で膜質の鱗片がまばらにつく。葉身は卵形~広卵状三角形、長さ 50~100cm、幅 35~80cm、2回羽状複生である。羽片は 8~10 対、上部のものは次第に小さくなる。下部羽片の小羽片は 9~12 対、三角状広披針形、大きいものは長さ 12cm、幅 3.5cm になり、先端は鋭頭、基部は短い柄があり、羽状に中裂する。胞子のう群は裂片中肋と葉縁の間またはやや中肋寄りにつき、線形、長さ 1~4mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（東谷山、村松 28188, 2015-10-23; 吉根、村松 18184, 1998-9-15）。

【県内の分布】

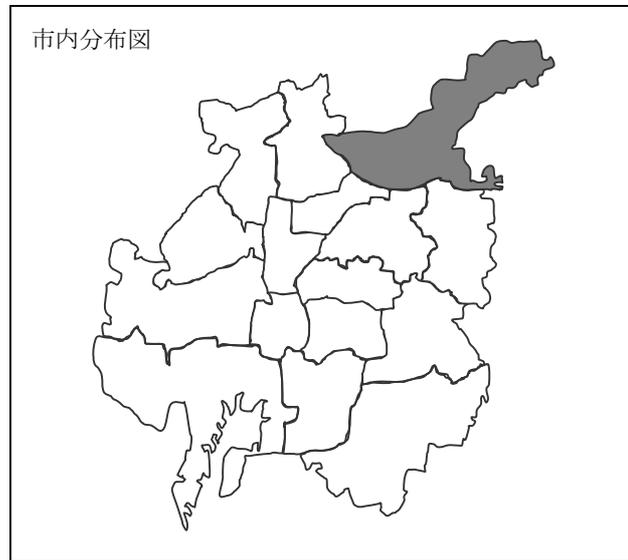
東三河の低山地には点々と分布しているが、西三河では稀で 26 豊田南西部（僅かに胞子のう群をつけた葉）、36 西尾南部で確認されているだけ、尾張でも少なく、名古屋市のほかは 37a 瀬戸、44a 美浜（若い株）、44b 南知多、48 春日井、54 一宮西部で確認されているだけである。

【国内の分布】

本州(佐渡島以南)、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。



【生育地の環境／生態的特性】

暖地の沢沿いの林内に群生することが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

東谷山では、北側の沢に、葉身長 55cm 程度の株が 2 株生育していた。現地は 1985 年頃砂防堰堤が作られた場所で、その後定着したと思われる。しかし、2018 年 6 月に再調査した時には確認できなかった。現地はイノシシにより掘り返されていて、それが原因で消失したと思われる。吉根では、上に引用した標本は胞子のう群をつけていないが、最近の調査では成株が 2 株、子株が 5 株確認された。

【保全上の留意点】

東谷山の現地はそのまま残されているので、そのうちに再度出現することも期待される。生育地の林や地形を保全することが必要である。

【特記事項】

和名は城山羊歯で、鹿児島県鹿児島市城山に由来する。ただし、*D. shiroyamaense* Tagawa の基準標本は、正確には一部の人の間で「セイタカシロヤマシダ」と呼ばれてきた型（愛知県には分布していない）である。ここで「シロヤマシダ」とした植物の学名は、厳密には未確定である。

【関連文献】

保シダ p.139, 平シダ p.255, 学シダ I p.329
倉田 悟・中池敏之（編）. 1983. 日本のシダ植物図鑑 3:126-132. 東京大学出版会, 東京.

(村松正雄 芹沢俊介)

オニヒカゲワラビ *Diplazium nipponicum* Tagawa

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 13。暖地山地性の植物で、名古屋市内では 1ヶ所に生育しているだけである。

評価区分

名古屋市 2020	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2020	リスト外
環境省 2020	リスト外

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は太く横に這う。葉は互いに接近して付き、葉柄は長さ 40～60cm、下部に黒褐色で膜質の鱗片がつく。葉身は広卵状三角形、長さ 40～80cm、幅はそれよりやや広く、2回羽状複生である。羽片は 4～8 対、上部羽片は次第に小さくなる。下部羽片の小羽片は 9～13 対、大きいものは長さ 12cm、幅 3.5cm になり、先端は鋭尖頭、基部は短柄があり、羽状に中～全裂し、裂片は更に浅裂することもある。胞子のう群は中肋寄りにつき、線形、長さ 1.5～5.5mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（東谷山、村松 29709, 2018-6-23, NBC）。

【県内の分布】

東三河、西三河には点在する。尾張では名古屋市のほかは、37a 瀬戸と 45 犬山で確認されているだけである。

【国内の分布】

本州、四国、九州（屋久島以北）。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。



【生育地の環境／生態的特性】

山地の沢沿いの林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

東谷山北側の沢の 2 つの堰堤の下に、胞子のう群をつける状態になった株が 4 株、小さい株を含めると 11 株（個体数階級は繁殖可能な個体だけを数えるので 3 になる）生育している。大きいものは葉長 1m に達する。砂防堰堤が作られたのは 1985 年頃なので、その後に定着したと思われる。

【保全上の留意点】

名古屋市内では東谷山以外に生育できそうな環境がない植物である。生育地の地形や植生を保全することが必要である。

【特記事項】

ニホンジカの嗜好植物の一つで、愛知県全体で見れば食害の激化に伴い、増加傾向にある。

【関連文献】

保シダ p.139, 平シダ p.255, 学シダ II p.326
倉田 悟・中池敏之（編）. 1983. 日本のシダ植物図鑑 3:146-151. 東京大学出版会, 東京.

（村松正雄 芹沢俊介）

イワヘゴ *Dryopteris atrata* (Wall.ex Kunze) Ching

評価区分

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 13。暖地山地性の植物で、名古屋市内では生育地も個体数も少ない。

名古屋市 2020	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2020	リスト外
環境省 2020	リスト外

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は太く直立する。葉は束生し、葉柄は長さ 25~40cm、最基部は褐色、それ以外は黒色で披針形の鱗片を密生する。葉身は広披針形、長さ 40~75cm、幅 13~30cm、単羽状複生である。羽片は 20~32 対、線形で中部のものが最も長く、下部のものはやや短くなり、直角に近い角度で出てほとんど鎌曲せず、幅 10~20mm、先端は鋭尖頭、基部は切形で無柄、辺縁は鋸歯縁またはごく浅く切れ込む。胞子のう群は辺縁付近を残して羽片裏面に散在し、包膜は円腎形である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（下志段味、芹沢 84182, 2009-6-9; 大森北, 村松 28438, 2017-4-9, NBC）。

【県内の分布】

東三河では点々と分布し、西三河では 10 区画で確認されている。尾張部では、名古屋市のほか、37a 瀬戸、37b 尾張旭、45 犬山、48 春日井で確認されている。

【国内の分布】

本州、四国、九州（種子島以北）。

【世界の分布】

日本、中国、台湾、インドシナ半島、南アジア。



【生育地の環境／生態的特性】

山地の沢沿いの林床に生育する。。

【現在の生育状況／減少の要因】

下志段味では、葉身長 50cm ほどの株が林内に 1 株生育していた。大森北でも、葉身長 40cm ほどの株が林内に 1 株生育していた。。

【保全上の留意点】、

名古屋市では偶発的に出現するだけの種で、希少偶産種に近い。保全はなかなか難しいが、一般的に言えば生育地の林を保全することが必要である。

【特記事項】

イヌイワヘゴ *D. cycadina* (Franch. et Sav.) C. Chr. は葉柄基部の鱗片が赤褐色で、羽片はより多数つき、やや鎌形に曲がり、脈の表面がへこまない。この種も東三河には点在しているが、西三河や尾張では少ない。名古屋市では天白区（天伯町植田）で葉身長 50cm ほどのものが採集されているだけで、今回は希少偶産種と判断し、評価の対象から除外した。

【関連文献】

保シダ p.93, 平シダ p.186, 学シダⅡ : p.362
倉田 悟・中池敏之（編）. 1985. 日本のシダ植物図鑑 4:304-314. 東京大学出版会, 東京.

（村松正雄 芹沢俊介）

ヌカイタチシダモドキ *Dryopteris indusiata* (Makino) Makino et Yamam.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 13。暖地性の植物で、名古屋市内では 1ヶ所に生育しているだけである。

評価区分

名古屋市2020	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2020	リスト外
環境省2020	リスト外

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は比較的小さく、斜上しする。葉は少数が束生し。葉柄は長さ 20～35cm で、基部に披針形で黒褐色の鱗片をつける。葉身は三角形～三角状卵形、通常長さ 30～50cm、幅 25～30cm、2 回羽状複生である。羽片は 6～9 対、ほとんど無柄、下部のものはほぼ対生し、羽軸は中軸からほぼ直角に出て多少湾曲し、上部のものは次第に小さくなる。小羽片は 10～15 対、広披針形で大きいものは長さ 6cm、幅 2cm くらいになり、通常羽状に中～深裂、最下のはやや小さくなって後側は中軸に重なる。胞子のう群は小羽軸または裂片の中肋と葉縁の中間につき、包膜は円腎形、若時紅色を帯びない。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（東谷山，村松 30072，2018-10-21，NBC）。

【県内の分布】

低山地に点在するが、犬山以外では少ない。東三河では 2 豊根、6 設楽東部、9 鳳来南部、10 鳳来北西部、11 作手、西三河では 28 額田、30 岡崎南部、尾張では名古屋市のほか 37a 瀬戸、37b 尾張旭、45 犬山、47 小牧で確認されている。

【国内の分布】

本州（伊豆半島以西）、四国、九州、屋久島。

【世界の分布】

日本、中国大陸。



【生育地の環境／生態的特性】

林内の岩場に生育することが多いが、林床に生育していることもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

東谷山北側の林道わきに、葉身長 35cm 程度の株が 3 株生育していた。

【保全上の留意点】

林道わきの斜面に生育しているので、拡幅工事などの時には特に注意が必要である。

【特記事項】

葉の大きさは変異が著しく、時には葉柄長 10cm、葉身長 15cm 程度でよく胞のう群をつけるものもある。ヌカイタチシダマガイ *D. simasakii* (H.Ito) Sa.Kurata は本種とサイゴクベニシダの中間的な形状を持つ種類で、愛知県では犬山には比較的多いが、他では稀である。この種は名古屋市内では守山区（東谷山麓）で葉身長約 35cm のものが採集されているが、1 株だけだったので希少偶産種と判断し、評価の対象から除外した。

【関連文献】

保シダ p.104, 平シダ p.195, 学シダ II p.369
倉田 悟・中池敏之（編）. 1985. 日本のシダ植物図鑑 4:468-478. 東京大学出版会，東京。

（村松正雄 芹沢俊介）

クラマゴケ *Sellaginella rematifolia* Spring

評価区分

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 11。暖地山地性の植物で、名古屋市内では生育地が少ない。

名古屋市2020	準絶滅危惧
愛知県2020	リスト外
環境省2020	リスト外

【形態】

常緑性の柔らかい多年生草本。主茎は地上を長く匍匐し、1~4cm 間隔で側枝を出す。側枝は枝を分け、長さは通常 10cm 以下である。葉は主茎にはまばらに、側枝には密に 4 列につき、腹葉は水平に開出して卵形、長さ 2~3.5mm、幅 0.8~2mm、先端は鋭頭、基部は円形で前側がやや広く、全縁、背葉は小さく、狭卵形で鋭尖頭である。胞子のう穂は枝端に 1 個頂生し、四角柱状、長さ 3~8mm のことが多いが、時には 2cm 以上になることもある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区(吉根, 鳥居ちゑ子 3055, 2012-5-20)、中区(名古屋城, 芹沢 78089, 2002-9-14)。

【県内の分布】

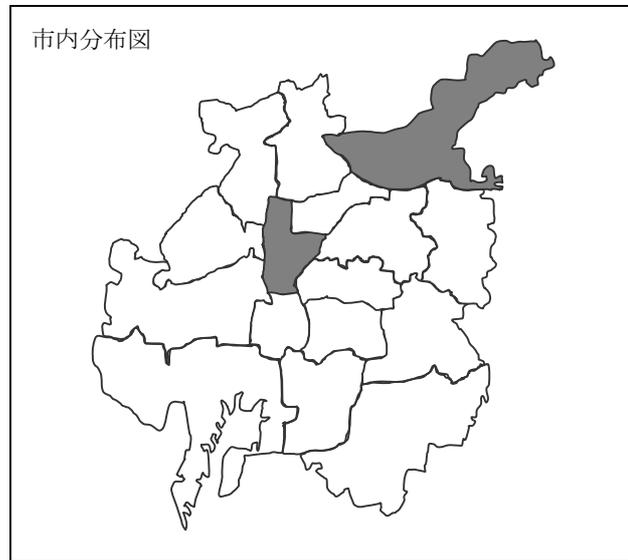
東三河では点々と分布し、西三河では 8 区画で確認されている。尾張では名古屋市のほか、37a 瀬戸、44b 南知多、45 犬山、48 春日井、53 一宮東部(古い標本)、57a 津島で確認されている。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸、東南アジア、南アジア。



【生育地の環境／生態的特性】

通常は沢沿いのやや湿った林床に群生する。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋城ではやや離れた 2 地点にそれぞれ小群落があったが、ごく最近の状況は確認していない。守山区も小群落だったらしい。

【保全上の留意点】

名古屋城では、園内整備などの際に過度の除草を行わないよう、注意する必要がある。

【特記事項】

名古屋市では、イワヒバ科の植物としては本種の他にカタヒバ *S. involvens* (Sw.) Spring が守山区(小幡北山)で採集されている。しかしこの標本は、直立茎の長さが 7~10cm の小さいもので、生育状況もよくわからない。今回はとりあえず希少偶産種として、評価の対象から除外しておく。このほかに、帰化植物のイヌカタヒバとコンテリクラマゴケも採集されている。

【関連文献】

保シダ p.18, 平シダ p.53, 学シダ I p.272
倉田 悟・中池敏之(編). 1990. 日本のシダ植物図鑑 6:184-196. 東京大学出版会, 東京.

(村松正雄 芹沢俊介)

ヤマイタチシダ *Dryopteris bissetiana* (Baker) C.Chr

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 12。山地では普通にみられる植物だが、名古屋市内では生育地も個体数も少ない。総点は 12 であるが、隣接地に多いことを考慮し、準絶滅危惧と評価する。

評価区分

名古屋市 2020	準絶滅危惧
愛知県 2020	リスト外
環境省 2020	リスト外

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎はやや太く斜上する。葉は少数が束生し、葉柄は長さ 25～40cm、密に鱗片をつける。鱗片は黒色、基部のものは大きく、線形で長さ 1.5～2cm であるが、上部のものは次第に小さくなる。葉身は楕円状卵形、長さ 30～50cm、幅 15～25cm、3 回羽状中～全裂、羽片は 7～10 対で上部のものは次第に小さくなり、羽軸裏面には基部が袋状になった小鱗片が多くつく。小羽片は 10～15 対、最下羽片の下側第一小羽片は次のものより大きい、著しく長いというほどではない。胞子のう群は裂片中肋と葉縁の中間につき、包膜は円腎形である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（東谷山、村松 28191, 2015-10-23, NBC; 吉根階子田、村松 18041, 1998-8-4; 吉根太鼓ヶ根、村松 30099, 2018-10-21, NBC）。

【県内の分布】

東三河では点々と分布し、西三河では 14 区画で確認されている。尾張部では、名古屋市のほか、37a 瀬戸、37b 尾張旭、40b 東浦、44b 南知多、45 犬山、47 小牧、48 春日井などで確認されている。

【国内の分布】

北海道、本州（秋田県以南）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸、東南アジア、ハワイ。



【生育地の環境／生態的特性】

山地林内の崖地などに生育することが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

吉根太鼓ヶ根では、宅地造成を免れた山林の一角に、葉長 40cm 足らずのやや小型の株が 2 株生育していた。階子田はよく記憶していないが、1 株だけだったと思われる。東谷山では北斜面の沢に小さな株が 1 株だけ生育していたが、2018 年 6 月の調査では確認できなかった。

【保全上の留意点】

生育地の丘陵の保全が必要である。林の伐採も避ける必要がある。

【特記事項】

モトイタチシダとイワイタチシダのゲノムを含む 3 倍体無融合生殖種である。モトイタチシダ、ナンカイイタチシダ、ハチジョウベニシダのゲノムを含むオオイタチシダ（ベニオオイタチシダ）*D. erythrovaria* K.Hori et N.Murak.名古屋市内では守山区（東谷山、芹沢 84159, 2009-6-9）と天白区（相生山緑地、芹沢 94968, 2018-10-20）で採集されているが、さらに調査が必要なので、今回は評価を保留しておく。

【関連文献】

保シダ p.100, 平シダ p.197, 学シダ II p.367
倉田 悟・中池敏之（編）. 1985. 日本のシダ植物図鑑 4:626-647. 東京大学出版会, 東京.

（村松正雄 芹沢俊介）

ハガクレカナワラビ *Arachniodes yasui-inouei* Sa.Kurata

【除外理由】

名古屋市では1回採集されただけの植物だが、採集された場所から判断しておそらく樹木苗等について移入されたものと思われる、評価の対象にならない。

評価区分

名古屋市2020	国リスト
愛知県2020	リスト外
環境省2020	絶滅危惧Ⅱ類

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は短く匍匐する。葉は少数が接近して出て、葉柄は長さ40~70cm、密に披針形で黒褐色の鱗片をつける。葉身は卵形~長楕円状卵形、長さ30~50cm、幅15~25cm、2回羽状全裂、先端は急に狭くなる。側羽片は4~6対、最下羽片は長さ14~20cmで7~12mmの柄があり、小羽片は12~15対、短い柄があり、基部前側は耳状、下側第一小羽片は更に羽状に切れ込み、次のものより大きい、著しく長いというほどではない。胞子のう群はやや中肋寄りにつき、包膜は円腎形である。

【分布の概要】

【市内の分布】

熱田区（神宮1丁目、高木順夫 7705, 1999-9-23）。標本は葉身長約40cmである。

【県内の分布】

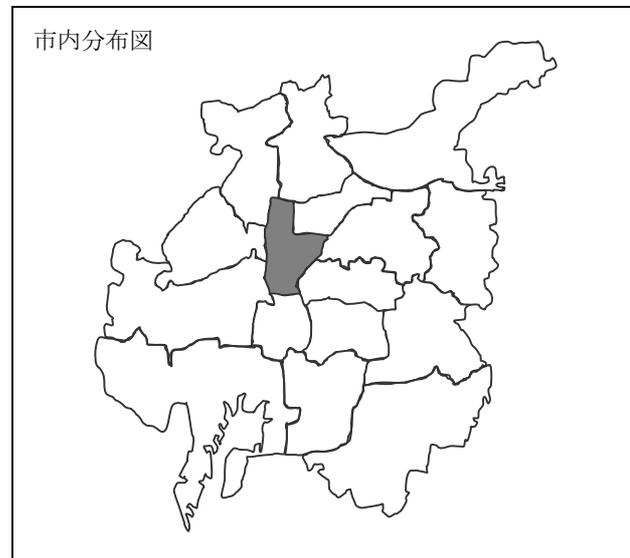
愛知県内では他に採集されていない。

【国内の分布】

本州（紀伊半島、山口県）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。



【生育地の環境／生態的特性】

自生地では沢からやや離れた照葉樹林内に生育していることが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では1回採集されただけで、生育状況も不明である。現在まだ生育しているかどうかははっきりしない。

【保全上の留意点】

本来の自生ではないと思われるので特に配慮する必要はないが、名古屋市での記録は少ないので、見かけたら標本を作成してほしい。

【特記事項】

愛知県のレッドデータブックには掲載されていないが、実際には県でも国リストになる。オニカナワラビ *A. chinensis* (Rosenst.) Ching に似ているが、葉質がやや薄く、葉縁の鋸歯は先端が著しく芒状になる。オニカナワラビは愛知県では低山地に広く生育しており、名古屋市でも守山区（東谷山、日比野修 4384, 1998-3-30）と緑区（鳴海町笹塚、渡辺幸子 3289, 1998-3-23, 葉身長約20cmの小さい葉だが胞子のう群はつけている）で採集されている。この種も名古屋市では絶滅危惧種の要件に該当する可能性があるが、生育状況がよくわからないので、今回は評価を保留した。

【関連文献】

平シダ p.181, 学シダⅡ p.394, 環境省 p.382.

倉田 悟・中池敏之（編）. 1979. 日本のシダ植物図鑑 1:396-399. 東京大学出版会, 東京. (村松正雄 芹沢俊介)

希少偶産種 (小葉植物・シダ植物)

カタヒバ *Selaginella involvens* (Sw.) Spring (小葉植物 イワヒバ科)
守山区 (小幡北山, 太田由美子 167, 1993-8-22)。クラマゴケの項参照。

イヌシダ *Dennstaedtia hirsuta* (Sw.) Mett. (シダ植物 コバノイシカグマ科)
中区 (名古屋城, 芹沢 78093, 2002-9-14)。「こんな普通種が……」と言われそうだが、名古屋市産の標本は現在のところこれしかない。よく探せば他に見つかるかもしれないが、さしあたり希少偶産種として評価の対象から除外しておく。

イブキシダ *Thelypteris esquirolii* (H.Christ) Ching var. *glabrata* (H.Christ) K.Iwats. (シダ植物 ヒメシダ科)
守山区 (東谷山, 村松 29704, 2018-6-23, NBC)。沢沿いに 1 株だけ生育していた。このほかに中村区 (中村公園, 福原稔 19069, 1998-11-7) で採集された標本もある。この標本は葉長 100cm ほどのよく発育した葉だが、その後現地に行った時には株を確認できなかった。

カラクサイヌワラビ *Athyrium clivicola* Tagawa (シダ植物 メシダ科)
守山区 (吉根, 村松正雄 14302, 1993-9-25)。標本は葉身長約 35cm である。名古屋市では 1 株確認されただけで、定着していたとは言い難い。

サキモリイヌワラビ *Athyrium oblitescens* Sa.Kurata (シダ植物 メシダ科)
守山区 (上志段味, 村松 21812, 2003-8-13, NBC)。1 株だけ生育していたと記憶している。吉根 (村松 14332, 1993-9-23) で採集された標本もある。ここも 1 株だけだったと思うが、最近の調査では現存を確認できなかった。

オオカナワラビ *Arachniodes amabilis* (Blume) Tindale var. *fimbriata* K.Iwats. (シダ植物 オシダ科)
名東区 (東名古屋病院, 久野鉦一 162, 1997-9-12)。標本は 2 枚あり、大きい方は葉身長約 40cm である。生育状況は不明だが、とりあえず希少偶産種として評価の対象から除外しておく。

キョスミヒメワラビ *Dryopsis maximowicziana* (Miq.) Holtt. et Edwards (シダ植物 オシダ科)
名東区 (藤巻町, 鳥居ちる子 2201, 2002-9-21)。標本は葉身長約 55cm である。「意識して採集したものではないので、生育状況は記憶していない」とのことだが、おそらく 1 株だけ生育していたと思われる。

オシダ *Dryopteris crassirhizoma* Nakai (シダ植物 オシダ科)
守山区 (下志段味, 芹沢 84183, 2009-6-9)。この標本は葉長約 90cm で、胞子のう群もつけている。株自体はかなり前から存続しているようだが、1 株だけで子株もできておらず、現状では希少偶産種の範囲を出ない。

イヌイワヘゴ *Dryopteris cycadina* (Franch. et Sav.) C.Chr. (シダ植物 オシダ科)
天白区 (天伯町植田, 渡辺幸子 4800, 2001-7-30)。イワヘゴの項参照。

ヌカイタチシダマガイ *Dryopteris simasakii* (H.Ito) Sa.Kurata (シダ植物 オシダ科)
守山区 (東谷山南西麓, 村松 19678, 2000-7-22)。ヌカイタチシダモドキの項参照。

ジュウモンジシダ *Polystichum tripterum* (Kunze) C.Presl は 2015 年版では希少偶産種としたが、守山区 (東谷山, 村松 8250, 2016-5-13; 吉根, 芹沢 92747, 2017-7-29), 天白区 (八事裏山, 芹沢 88951, 2013-9-29; 相生山緑地, 芹沢 88620, 2013-7-20) で確認され、今回はリスト外と評価された。